

さがの人たちにもっと伝えたい、佐賀の赤十字。

赤十字さが



2025 春号
vol. 92

年2回発行
4月 10月

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

公式 Instagram
更新中



特
集

2025年大阪・関西万博

P.2

令和7年度事業計画及び予算が承認されました

P.4

5月は赤十字運動月間です

P.5



2025年 大阪・関西万博

赤十字は「国際赤十字・赤新月運動館」として国連などの国際機関と同じ区画にパビリオンを出展します。

「人間を救うのは、人間だ。～The Power of Humanity～」をコンセプトに、世界の人道危機、そこに立ち向かい、立ち上がる人々のヒューマンストーリーを通して赤十字の使命と人間のチカラを感じるパビリオンです。
300㎡ (25m×12m) の空間を3つのゾーン (Zone1・2・3) に分け、約30分かけて赤十字の世界観を体感していただきます。

パビリオンで感じてほしいこと

人道危機で平穏な日常を奪われることの理不尽さと、それに苦しんでいる人の存在を自分ごととして感じていただきたい。そして、その現実立ち向かう勇気と、苦しんでいる人を救うことの大切さに気づき、誰かのために自分ができることがあると感じ、一歩を踏み出すきっかけになることを願っています。



赤十字パビリオン 外観イメージ

2025年4月13日から10月13日までの184日間にわたり、大阪 夢洲を会場に大阪・関西万博が開催されます。160を超える国・地域・国際機関をはじめ、企業やNGO/NPO、市民団体等が、「いのち輝く未来社会へのデザイン」をテーマに最新技術や独自の文化を独創的なパビリオンで紹介し、未来に向けた取り組みを体験することができます。



多様な人道支援活動を知る活動紹介ウォール

Zone1 ● 気づく“Notice”

すべての人に、それぞれの日常。

ZONE2へのプロローグとして世界中の人々の平穏な日常を空間全体で感じていただきます。

Zone2 ● 考える“Think”

人間を救うのは人間だ。

災害・紛争で突如として理不尽に日常を奪われる人道危機の厳しい現実を、体験者のリアルな証言と共に没入感のあるドームシアターで体験いただきます。

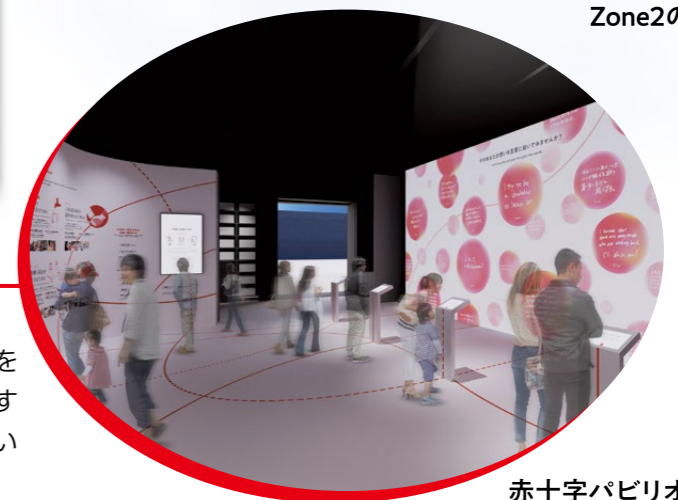


赤十字パビリオン Zone2のイメージ

Zone3 ● 実行する“Act”

誰かのために、行動する。

ドームシアターで感じた自身の思いを幅8メートルの大型スクリーンに投稿することができます。また、赤十字の幅広い人道支援活動を壁一面で紹介。



赤十字パビリオン Zone3のイメージ

万博と赤十字



日本赤十字社の創設者 佐野常民

1863年に赤十字機関(現在の赤十字国際委員会)が誕生してから4年後、パリ万博は世界に赤十字思想を発信する初の国際的な舞台となり、以降の万博も赤十字思想を発信する重要な機会となり続けました。1867年のパリ万博の会場では、日赤の創設者となった佐野常民をはじめ、世界各国の人々が「敵味方の区別なく救う」ための画期的な国際条約や仕組みに衝撃を受けました。その後の1873年のウィーン万博にも参加した佐野は、さらに多くの国による赤十字関連の展示を目にし、傷つき苦しむ人を「救いたい」思いは、世界共通であると確信。のちに、これこそが文明開化の証と述べています。万博は日赤誕生の原点であると共に、万博と赤十字は今も昔も「救いたい」という思いでつながっているのです。



パリ万博(1867年)の赤十字パビリオン

その他の関連情報 ●

① 赤十字情報プラザ 企画展

「万博と赤十字～日赤発祥の原点は万博にあり～」
2024年10月1日～2025年10月30日(現在開催中)

▶ 事前予約制、火・水・木 10:00～16:30

▶ WEBミュージアムも同時開催

<https://jrc.or.jp/webmuseum/>



② 赤十字パビリオンの最新情報は特設ウェブサイト、公式SNSで随時発信しています。

▶ 日赤特設ウェブサイト

<https://expo2025.jrc.or.jp/>

▶ 公式SNSへのフォローをぜひお願いします。



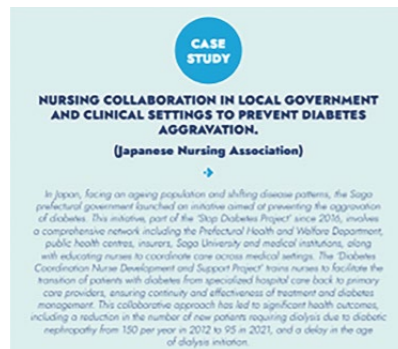
佐賀県の糖尿病コーディネート看護師の活動が 国際看護協会に評価されました！

佐賀県では2012年から2021年にかけて糖尿病性腎症から透析に移行する新患発生数が、年間150人から年間95人にまで減少しています。また、透析を開始することになったとしても、開始する年齢がより遅くなったと報告されています。唐津赤十字病院も長年にわたってこのプロジェクトに参画しており、佐賀県の医療従事者や行政の皆様の頑張りが世界に評価されたこと、そして何よりも、県民の皆様の健康に貢献できたことをとても嬉しく思います。

○唐津赤十字病院 糖尿病への取り組み○

当院は日本糖尿病学会専門医認定教育関連施設に認定されています。

また、日本糖尿病学会専門医や、糖尿病認定看護師、管理栄養士などがチームで患者さんのお役に立てるよう日々活動しています。糖尿病についてお困りごと、療養指導、教育入院などお悩みはございませんか？ 皆様の生活がよりよくなるよう、当院スタッフがサポートさせていただきます。



ICN 主催 2024 年国際看護師の日 (IND)
のウェビナーは YouTube 「IND 2024
webinar recording」にてご覧いただけます。

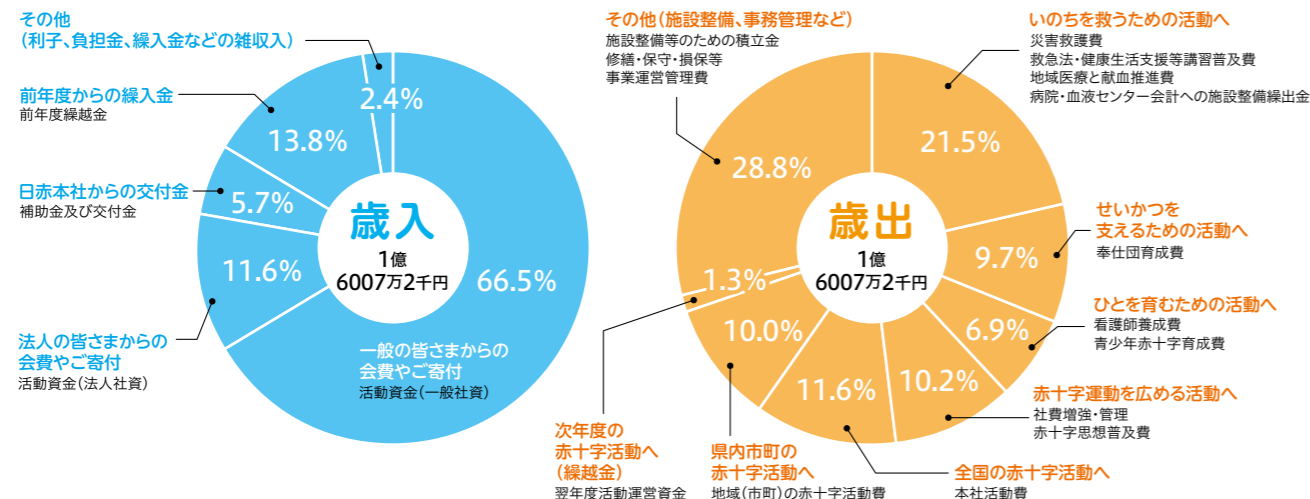
- ◆URL: <https://youtu.be/wclRTEqIIPi>
- ◆佐賀県の取り組みの紹介：【1:12:49～】

〈公益社団法人日本看護協会、INTERNATIONAL NURSES DAY 2024, 2024〉

令和7年度事業計画及び予算が承認されました

令和7年2月7日に開催された令和6年度第2回佐賀県支部評議員会において、支部及び唐津赤十字病院の令和7年度事業計画と予算が承認されました。また、佐賀県赤十字血液センターの事業計画を報告しました。

令和7年度 佐賀県支部予算



5月は赤十字運動月間です



赤十字運動月間ポスター

5月1日は日本赤十字社の創立記念日、5月8日は赤十字創始者 アンリー・デュナン生誕の日「世界赤十字デー」です。日赤は毎年5月を「赤十字運動月間」として、皆さまに赤十字のさまざまな活動を紹介し、継続的なご支援をお願いしています。

今年も、佐賀県内の様々な施設を赤十字のコポレートカラーである赤でライトアップする「レッドライトアップ」や、県庁でのパネル展を計画しています。



昨年のレッドライトアップの様子
(佐賀メディカルセンタービル：佐賀市)

今年もやります！有田陶器市献血

佐賀県赤十字血液センターでは、今年もゴールデンウィークに開催される有田陶器市の会場に献血バスを配車し、期間中、献血の受付を行います。有田町は日本における陶磁器発祥の地とされており、会場では毎年500件近い商店や露店が軒を連ね、約100万人もの人が掘り出し物の陶磁器を求めて会場を訪れます。例年、ゴールデンウィークの期間中は献血協力者が減少する傾向にある中、昨年は陶器市会場で合計200名以上の方に献血へご協力いただきました。今年も陶器市会場で献血していただいた方には、有田焼マグカップ等の限定品をプレゼントさせていただきます。多くの皆様のご来場と献血へのご協力をお待ちしています。



献血協力を呼びかける様子



有田陶器市会場限定記念品の有田焼マグカップ

11月・1月

初の試み!『SDGs 献血キャンペーン』大好評

佐賀県赤十字血液センターでは、県内の農家や漁協とのコラボにより『SDGs 献血キャンペーン』を実施しました。まず第一弾として、昨年11月に神埼市で農業を営む高嶋様より規格外※の野菜（玉ねぎやピーマンなど）を寄贈していただき、キャンペーン期間中に献血された方へプレゼントさせていただきました。次に第二弾として、今年1月に佐賀県有明海漁協の香月様と右近様から同じく規格外※の新海苔（のり）を寄贈いただき、こちらも献血協力者へプレゼントさせていただきました。両キャンペーンとも大好評で、合計194名の方が献血にご協力いただきました。赤十字の基本理念である「人道」は、SDGs（持続可能な開発目標）の基本理念である「leave no one behind（誰一人取り残さない）」と類似しており、日本赤十字社が行う人道支援活動は、持続可能な社会づくりにも繋がっています。今回ご協力いただいた方からは「ぜひまた実施してほしい」とのお声をいただいております。血液センターでは次回以降のキャンペーン



実施に向けて検討をしています。今回のキャンペーン並びに献血へのご協力ありがとうございました。

※規格外とは、市場で決められた形やサイズに合致しないだけであり、味や栄養などの品質に何の問題もありません。

佐賀県
赤十字血液センター

特別企画 第三弾

SDGs献血キャンペーン

今回は、佐賀県を代表する海苔!!

写真はイメージです

佐賀県有明海漁協の香月様ならびに右近様より、規格に合わない新海苔（通称：規格外海苔※）をご寄贈いただきました。つきましては、『SDGs献血キャンペーン』として下記の日程で献血にご協力いただいた方に寄贈いただいた海苔をプレゼントいたします!!

※1 規格外海苔は、厚みや色味も色合いも異なるため市場には出せない品物です。品質には変わりありません。

※2 厚みにお返しをさせていただきます。

※3 毎日、先着50名様までとなります。

日程：令和7年1月7日（火）・8日（水）

会場：献血プラザさが

受付時間
（成分献血）9:00～11:30/12:30～16:30
（全血献血）9:00～11:30/12:30～17:00

※この日の献血は献血者数に制限なく受け付けています。献血者数に制限がないため、献血者数が増える可能性があります。献血者数が増える場合は、献血者数に応じて献血者数を制限させていただきます。ご了承ください。

※この日の献血は献血者数に制限なく受け付けています。献血者数に制限がないため、献血者数が増える可能性があります。献血者数が増える場合は、献血者数に応じて献血者数を制限させていただきます。ご了承ください。

唐津赤十字病院

12月

満天の星に感動☆ 病院で出張プラネタリウム☆

唐津赤十字病院では、一般社団法人「星つむぎの村」さんに出張プラネタリウムで来ていただきました。4mのエアドームの中は日常では感じることでない満天の星が広がっており、小児科外来や入院中の患者さん、スタッフが院内での星空を見上げ、「今日、病院に来てよかった」と笑顔でその映像と解説を楽しめました。中には感動で涙された方も。星からみんなが元気をもらえた、とても貴重な時間を過ごすことができました。



12月14日（土）、21日（土）

佐賀県支部

世界各地で苦しんでいる人のために
～「NHK 海外たすけあい」街頭募金～

佐賀県内5市町9会場で一斉に街頭募金を実施しました。延べ300人以上のボランティアの方々や、JRC高校生メンバー等にご協力いただき職員と共に、各会場にて募金へのご協力を呼びかけました。寒い中、多くの方が足を止めてくださり、苦しんでいる人々のためにと寄付をしてくださいました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。私たちは苦しんでいる人を救うため、海外への支援も続けてまいります。これからも赤十字活動へのご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

NHK 海外たすけあいは ▶



1月11日（土）

佐賀県支部

奉仕団同士の繋がりを深める第8回奉仕団研修交流会を開催

令和7年1月11日（土）、日本赤十字社佐賀県支部にて研修交流会を開催し、県内12の奉仕団員と支部職員含め48名が参加しました。

フィールドワークでは、所属奉仕団が違う者同士でチームを組み、全員で協力しながら各関所の課題に取り組みました。参加者からは「協力することの大切さや楽しさを改めて感じた」「リーダーシップを育成する方法として参考になった」「初対面のボランティアの方と交流できてよかった」などの感想が寄せられました。

今回の研修交流会を通して、より赤十字活動への理解が深まり、奉仕団同士の繋がりを深めることができました。災害時等の活動では、奉仕団同士の繋がりが大きな力になります。今後も佐賀県支部では、継続してこうした機会を設け、奉仕団同士が連携し、協力できる体制づくりに努めてまいります。



▲奉仕団とは



研修交流会



フィールドワーク（暗黒の国）



フィールドワーク



研修交流会

七山診療所

あべともすけ
所長 阿部 智介先生

2年間の臨床研修は自分が生まれた病院、かつ父が外科医として最後に働いていた北九州の病院で研鑽を積んだのち、佐賀大学医学部附属病院総合診療部で2年勤務しました。しかし、一人で奮闘してきた父が長期入院するようになったこともあり、地元に戻り父の診療所で働き始めました。

◆ACP(アドバンス・ケア・プランニング)に対する想いは？

生きているのではなく、医療に“生かされている”という患者さんを見たときに、本当にその人の意思が尊重されているのか疑問に思いました。

意識がないような状況、意思疎通が難しいような状況でも自分自身が最期までどうやって生きていきたいか考えて欲しい、という思いで、ACPを広める取り組みを行っています。

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)とは…

自分が望む医療やケアについて前もって考え、家族や医療ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取り組み。

◆最後に一言お願いします。

育ててくれたこの地域を守っていくのは私の役目というか、恩返しだと思っています。

これからもすべての人がよりよく、自分らしく生きられる地域を目指して、活動が続けていきます。

患者さん一人ひとりに最適な時期に最適な医療を提供するために、唐津赤十字病院のような救急病院にとって、七山診療所のような1次医療機関の協力は欠かせません。

唐津赤十字病院は、佐賀県北部地域医療の最後の砦としての役割を果たすためにも、これからさらに地域医療機関と強固な信頼関係を築いていきます。



阿部智介先生は、高齢化による過疎化が進む唐津市七山地区唯一の診療所で、先代である父親の跡を継ぎ、日々地域医療を支えておられます。

2023年には、地域医療に貢献する若手医師を顕彰する「やぶ医者大賞」を佐賀県で初受賞され、七山地区にとどまらず唐津市全体の在宅医療・介護連携事業の責任者としてACP(アドバンス・ケア・プランニング)の普及や在宅医療及び介護の体制構築に努めておられます。

また2012年以降、毎年唐津赤十字病院へ車いすを寄贈していただいております、病院運営に大きなご支援をいただいております。



◆車いすの寄贈を始められた経緯は？

診療所の先代でもある父が唐津市内の病院で13年前に亡くなり、唐津赤十字病院で病理解剖をおこなっていただいたことや、父が生前より唐津赤十字病院と交流があったことが寄贈を始めたきっかけです。

2012年に10台寄贈して以降、毎年父の命日でもあり、診療所を1人でやるしかないと覚悟を決めた『9月10日』に、自分の中の1年の区切りという意味も込めて寄贈を続けています。

◆なぜ七山地区(過疎地域)での医療を志したか？

小さい頃から、たった一人で七山地区の医療を支えてきた父の背中を間近でみて、自分もこういう医者になりたいと思っていました。



日本赤十字社

3施設問い合わせ先

佐賀県支部

〒840-0843 佐賀市川原町2番45号
TEL 0952-25-3108

唐津赤十字病院

〒847-8588 唐津市和多田2430番
TEL 0955-72-5111

佐賀県赤十字血液センター

〒849-0925 佐賀市八丁畷町10-20
TEL 0952-32-1011



ご愛読
ありがとうございます